

水産庁

プレスリリース

平成21年4月13日
水産庁

第22次南極海鯨類捕獲調査船団(平成20年度)の入港について

本年度の南極海鯨類捕獲調査(西脇茂利団長(財団法人日本鯨類研究所))に従事した調査母船「日新丸」、目視採集船「勇新丸」、「第二勇新丸」、「第三勇新丸」、目視専門船「第二共新丸」及び「海幸丸」の入港についてお知らせします。

1. 調査船団の入港について

- (1)調査母船:日新丸(8,044トン 小川知之船長以下138名)
平成21年4月14日(火曜日)下関港(山口県)
- (2)目視採集船:第三勇新丸(742トン 廣瀬喜代治船長以下19名)
平成21年4月13日(月曜日)下関港(山口県)(入港済)
第二勇新丸(747トン 三浦敏行船長以下18名)
平成21年4月13日(月曜日)下関港(山口県)
勇新丸(720トン 佐々木安昭船長以下20名)
平成21年4月13日(月曜日)下関港(山口県)
- (3)目視専門船:第二共新丸(372トン 南浄邦船長以下20名)
平成21年4月7日(火曜日)大井埠頭(東京都)(入港済)
海幸丸(860.25トン 新屋敷芳徳船長以下25名)
平成21年4月9日(木曜日)塩竈港(宮城県)(入港済)

2. 調査の概要

- (1)出港日:平成20年11月14日から各調査船が順次出港
- (2)調査海域:南緯60度以南の南氷洋(東経130度以東、西経145度以西)
- (3)捕獲頭数:クロミンククジラ679頭及びナガスクジラ1頭
- (4)実施機関:財団法人日本鯨類研究所
- (5)本年の調査の成果:
多く発見された鯨類は、クロミンククジラ(1,974群4,884頭)、ザトウクジラ(418群735頭)、ナガスクジラ(122群491頭)であった。
クロミンククジラは、調査海域内に広く分布し、西経145度から西経170度及びロス海において、それぞれ高密度海域が観察された。
ナガスクジラ及びザトウクジラは本調査海域の北部海域で密度が高く、その密度はクロミンククジラのそれとほとんど違いは見られなかった。(ザトウクジラの密度指数は、2004/05年度調査時の約1.6倍)
捕獲調査により得られた鯨類の年齢、胃内容物、栄養状況等に関するデータや、目視調査、計量魚探及びネットサンプリングによる鯨生物調査で得られた情報を解析することにより、南極海生態系における鯨類の鯨生物に対する捕食のインパクト等について推定することが可能となる。
また、深度水温塩分記録計、表層生物環境モニタリングシステムなどの観測機器類を用いた海洋環境観測調査及び非致命的調査として、ザトウクジラ及びシロナガスクジラの自然標識撮影、ナガスクジラ及びザトウクジラのバイオプシー標本採取も行った。
今次調査で得られた結果により、将来的な予測も含め鯨類資源に関する研究が進展することが期待される。
- (6)その他
今次調査においても、反捕鯨団体シー・シェパードによる16日間にわたる危険な妨害行為(薬品投てき被害5隻、体当たり被害3隻)を受けた。

— お問い合わせ先 —

資源管理部遠洋課
担当者:捕鯨班 高屋、魚谷(うおや)
代表:03-3502-8111(内線6724)
ダイヤルイン:03-3502-2443

[ページトップへ](#)

Copyright:2007 Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries

〒100-8907 東京都千代田区霞が関1-2-1 電話:03-3502-8111(代表)

水産庁